

研究支援事業
学術集会の開催

第81回日本血液学会学術集会 プログラム概要

会 期：令和元年（2019）年10月11日（金）～13日（日）

台風15号接近により、第2日目（10月12日）プログラム中止

会 場：東京国際フォーラム

会 長：小松 則夫（順天堂大学医学部内科学血液学講座）

テーマ：The Future is Now — A Fascinating Era for Hematology

参加者数：6,271名（海外133名）

プログラム：

会長講演 1題

特別講演 5題（Special Lecture 3題、ASH Special Lecture、EHA Special Lecture）

JSH 学会賞受賞講演 1題

教育講演 54 演題（内 18 演題：実施中止、1 演題キャンセル）

シンポジウム 12 テーマ（57 題、うち 2 題取り下げ）

（Presidential Symposium、JSH-ASH Joint Symposium、JSH-EHA Joint Symposium、
女性医師キャリアシンポジウム を含む）

Asian Joint Panel Discussion 1 テーマ（7 題、うち 1 題取り下げ）

Plenary Session 6 題

Clinical Debate 8 テーマ

一般口演 679 題

一般ポスター 618 題

SETP（Scientific Exchange Training Program） 4 テーマ（8 題）

コーポレートセミナー ランチョンセミナー：47 セミナー（内 16 セミナー、実施中止）

モーニングセミナー：28 セミナー（内 5 セミナー、実施キャンセル）

Industry Session 2 セミナー（2 題）

公開シンポジウム

国 際

・**第11回国際シンポジウム（The 11th JSH International Symposium in Shimane）**

会 長 鈴宮淳司

日 時 2020年5月22日（金）～5月23日（土）※COVID19感染拡大により開催中止

会 場 ホテル一畑（島根県松江市）

テーマ Novel drugs for hematologic diseases

・**第81回日本血液学会学術集会（台風のため、2日目のプログラムは中止）におけるASHおよびEHA Special Lecture/JSH-ASH Joint Symposium/JSH-EHA Joint Symposium/Asian Joint Panel Discussion**

ASH Special Lecture

Roy Silverstein “Platelet CD36 at the intersection of inflammation and arterial thrombosis”

JSH-ASH Joint Symposium < Recent advances in translational and clinical research in lymphoid malignancies >

David Weinstock, Keisuke Kataoka, Hiroaki Miyoshi, Kerry J. Savage

EHA Special Lecture

Shai Izraeli “High risk JAK-STAT driven acute lymphoblastic leukemia: lessons from Down Syndrome”

JSH-EHA Joint Symposium < MRD in AML > ※後日収録配信
Gerrit J. Schuurhuis, Hiroki Yamaguchi, Robert K. Hills, Takashi Taga

Asian Joint Panel Discussion < Epidemiology, diagnosis and treatment of myeloproliferative neoplasms in Asian countries > ※中止

Zhijian Xiao(China), Chien-Chin Lin(Taiwan), Pongtep Viboonjuntra(Thailand), Junshik Hong(Korea), Rabindra Kumar Jena(India), Ong Kiat Hoe(Singapore), Yoko Edahiro(Japan)

• **25th EHA Virtual Congress** における **EHA-JSH Joint Symposium**
<MRD in AML>

- Gerrit-Jan Schuurhuis: Minimal/measurable residual disease in AML
- Yoshikane Kikushige: Evaluation of MRD targeting TIM 3⁺ LSC is a promising approach to predict the clinical outcome of allogeneic HSCT

• **2020 Highlights of ASH in Asia-Pacific (Hanoi) 派遣**

※COVID19 感染拡大により開催中止。2021 年に同じく Hanoi にて開催予定。

松田 健佑 (東京大学医学部附属病院血液・腫瘍内科)

若松 学 (名古屋大学大学院医学系研究科小児科学)

大崎 篤史 (埼玉医科大学病院総合診療内科)

那須 涼 (国立国際医療研究センター病院)

原 隆二郎 (東海大学医学部血液・腫瘍内科)

• **若手研究者への 25th EHA Virtual Congress Travel Award 支援** (各 10 万円)

一色 佑介 (千葉大学医学部附属病院血液内科) "Single plasma cell transcriptional analysis to understand the pathogenesis of POEMS syndrome"

奥田 瑠璃花 (京都大学大学院医学研究科腫瘍生物学講座) "Distinct ethnic, clinical, and genetic characteristics of der(1;7) in myelodysplastic syndrome"

嬉野 博志 (佐賀大学医学部内科学講座 血液・呼吸器・腫瘍内科) "Polymorphism of HLAs predict treatment free remission following TKI discontinuation in patients with chronic myeloid leukemia"

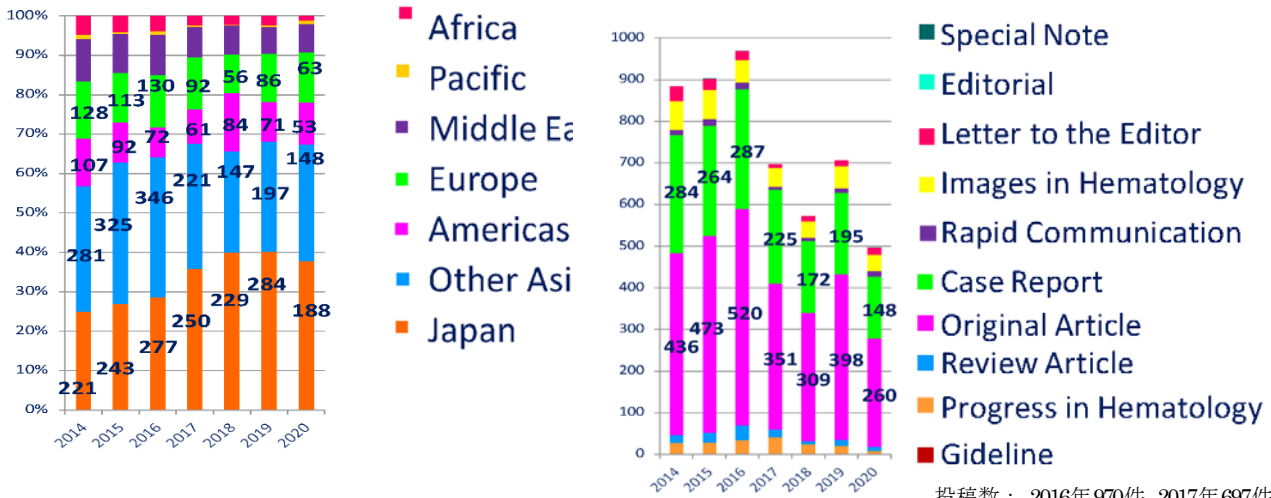
石尾 崇 (北海道大学大学院医学研究院血液内科学教室) "Polymorphism of HLAs predict treatment free remission following TKI discontinuation in patients with chronic myeloid leukemia"

綿貫 慎太郎 (慶應義塾大学医学部血液内科) "High energy demand upregulates glycolytic ATP production in hematopoietic stem cells via AMPK / PFKFB3 axis"

• **EHA-JSH Collaborative Exchange Program 2019** (1 名に 100 万円)

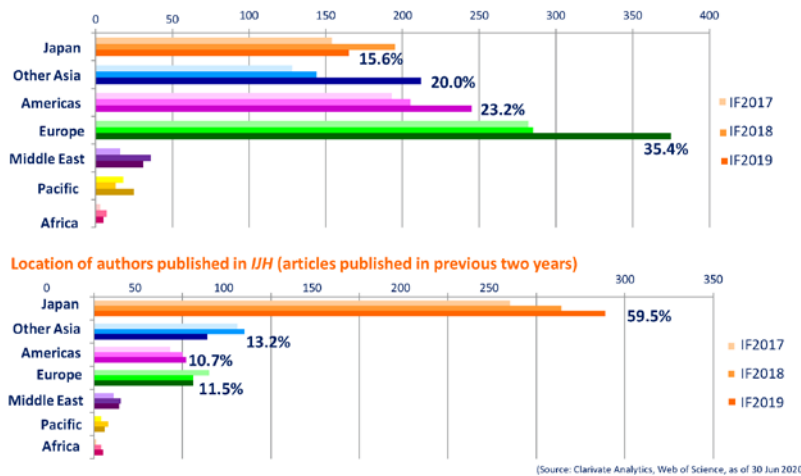
JSH、EHA とともに受賞者なし

《地域別投稿数》

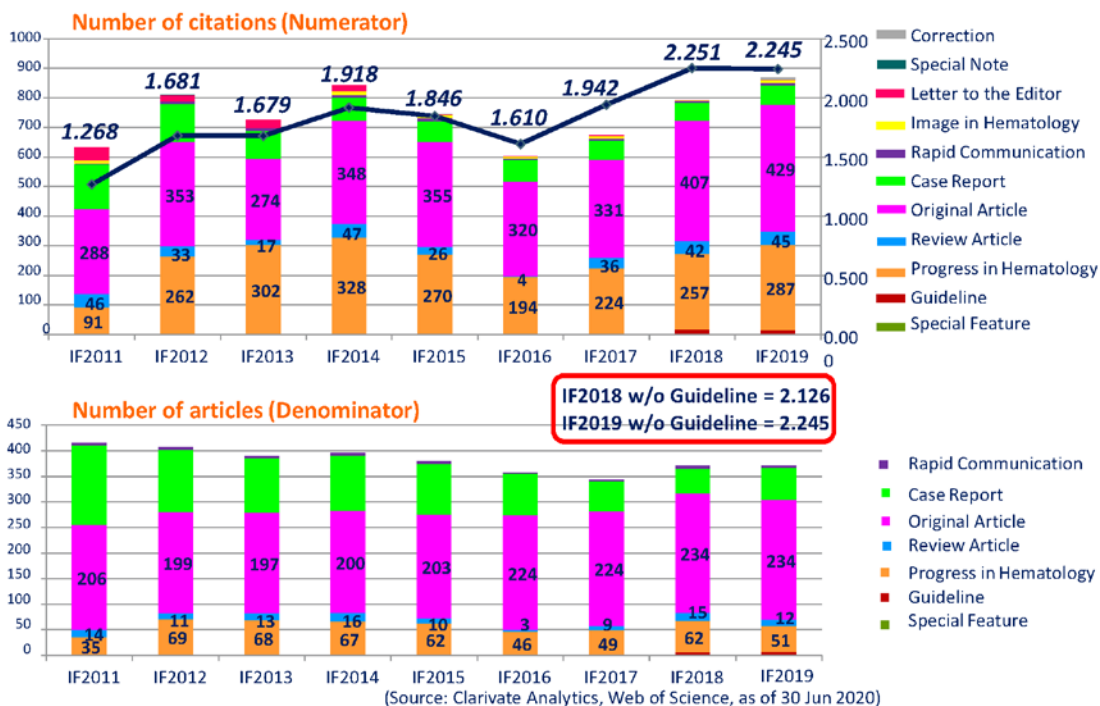


投稿数：2016年970件, 2017年697件, 2018年572件, 2019年706件, 2020年498件 (630現在)

《2017-2019年に出版されたIJHの地域別引用状況(2019)》



《Impact Factor》



「臨床血液」誌 《2020.8.17 現在》

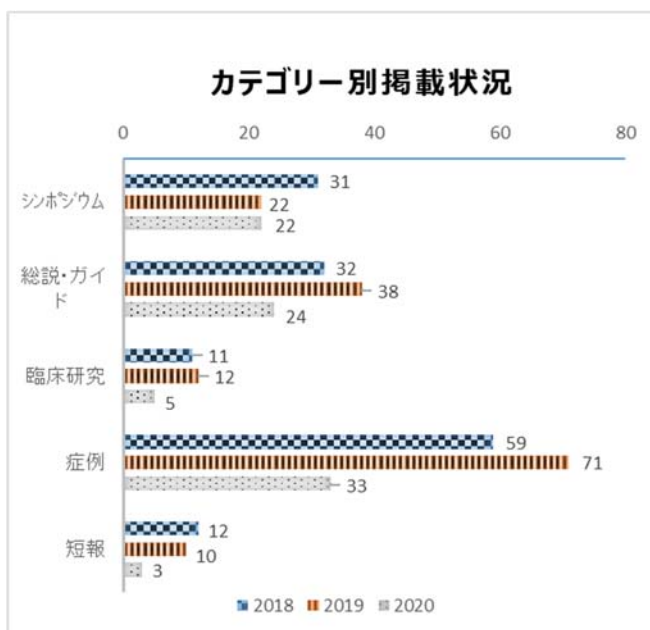
2019年発刊状況

巻/号	頁数	シホ°	総説	臨研	症例	短報	計
60-1	83	0	0	1	9	0	10
60-2	68	0	0	1	6	3	10
60-3	115	0	16	3	6	0	25
60-4	94	0	1	0	9	0	10
60-5	193	3	9	1	5	1	19
60-6	195	4	11	0	4	0	19
60-7	122	7	0	1	6	1	15
60-8	138	8	1	1	5	1	16
60-9	396	第81回学術集会教育講演号					49
60-10	114	0	0	2	7	1	10
60-11	98	0	0	1	7	1	9
60-12	111	0	0	1	7	2	10
計	1727	22	38	12	71	10	153

2020年発刊状況

巻/号	頁数	シホ°	総説	臨研	症例	短報	計
61-1	98	0	2	2	3	1	8
61-2	114	0	0	0	4	1	5
61-3	84	0	0	1	10	1	12
61-4	138	0	8	0	6	0	14
61-5	148	3	10	0	5	0	18
61-6	140	8	3	2	2	0	15
61-7	132	11	1	0	3	0	15
61-8							0
61-9		第82回学術集会教育講演号					55
61-10							0
61-11							0
61-12							0
計	854	22	24	5	33	3	142

カテゴリー別掲載状況



◆採用日数平均◆

57巻	80.5日
58巻	85.6日
59巻	86.3日
60巻	87.4日

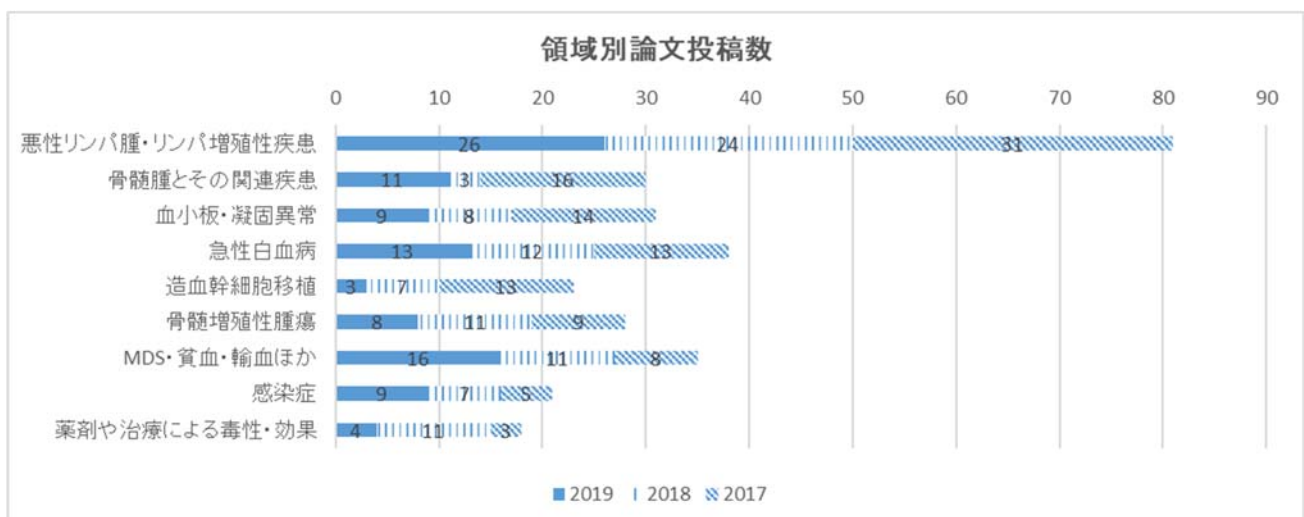
◆年度別採用率◆

	投稿数	採用数	採用率
2017年	118	86	72.8%
2018年	101	88	87.1%
2019年	106	85	80.1%

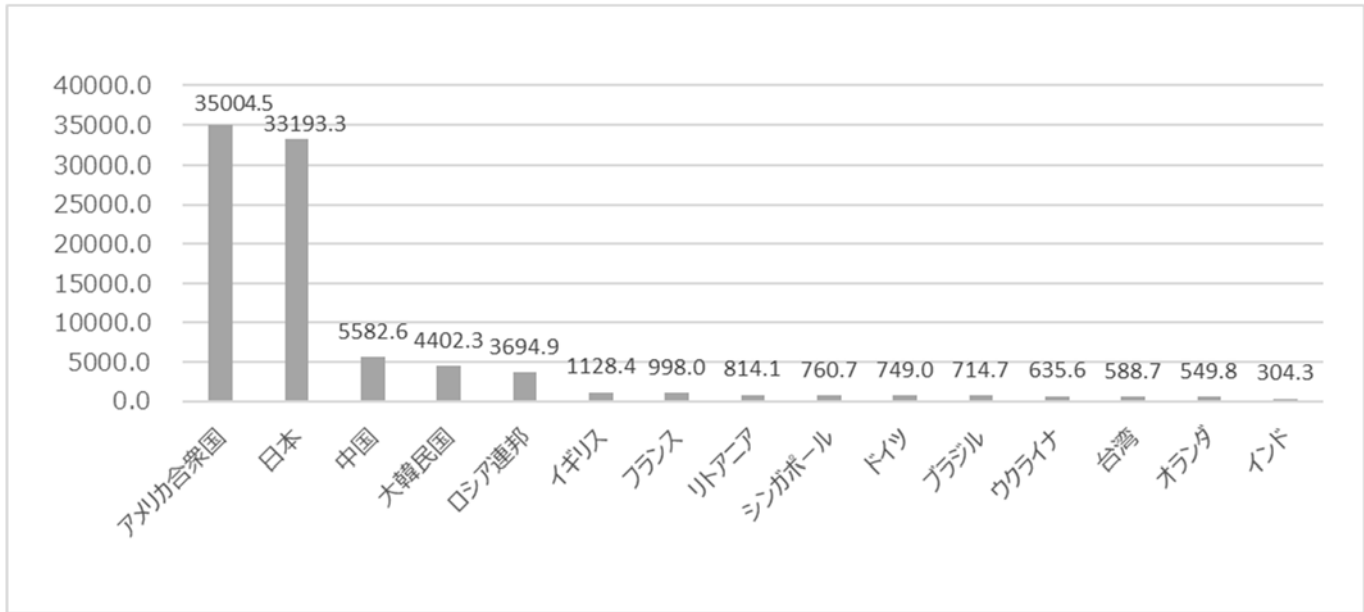
《連載コーナー》

- ・Picture in Clinical Hematology
- ・Introduce My Article
- ・Take Me Out to the Congress Abroad
- ・りんけつクイズ
- ・Rinketsu Dictionary

領域別論文投稿数



J-STAGE 国別 1 カ月平均アクセス数 TOP15 (2019年8月～2020年7月)



査読者 TOP10 2019 (敬称略) ※延べ査読数による

1 亀崎豊実	2 柴山浩彦	3 外島正樹	4 半田寛	5 新井文子
6 原田浩徳	7 猪口孝一	8 臼杵憲祐	9 和泉透	10 森毅彦

J-STAGE アクセス数 TOP10 (2019年8月～2020年7月)

筆頭著者	論文タイトル	巻数	アクセス数
柏木 浩和	成人特発性血小板減少性紫斑病治療の参照ガイド 2019改訂版	60	12,722
藤村 欣吾	成人特発性血小板減少性紫斑病治療の参照ガイド 2012年版	53	5,314
松本 雅則	血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) 診療ガイド2017	58	4,417
安間 秋靖	Melphalan治療により胃癌摘除可能であつた多発性骨髄腫の1例	14	3,601
内田 立身	鉄欠乏性貧血における氷食症	55	3,489
喜多島 康一	慢性骨髄性白血病急性転化の早期診断 早期治療に関する臨床的研究	13	3,334
鎌田 七男	慢性骨髄性白血病における摘脾の意義とその適応	18	2,744
原田 結花	慢性骨髄単球性白血病(CMML) 一病態解明と治療の進歩一	57	2,616
片山 俊夫	肺炎球菌に汚染された血小板濃厚液の輸血直後に発症した敗血症性ショックと横紋筋融解症の致死例の合併例	44	2,289
宮崎 香奈	CD5陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫—分子基盤に基づく治療戦略—	56	2,249

J-STAGE ダウンロード数 TOP10 (2019年8月～2020年7月)

筆頭著者	論文タイトル	巻数	DL数
藤村 欣吾	成人特発性血小板減少性紫斑病治療の参照ガイド 2012年版	53	15,017
宮川 義隆	妊娠合併特発性血小板減少性紫斑病診療の参照ガイド	55	9,012
柏木 浩和	成人特発性血小板減少性紫斑病治療の参照ガイド 2019改訂版	60	8,806
吉崎 和幸	キャスルマン病診療の参照ガイド	58	8,772
松本 雅則	血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) 診療ガイド2017	58	423
原田 結花	慢性骨髄単球性白血病(CMML) 一病態解明と治療の進歩一	57	289
多林 孝之	再発難治性多発性骨髄腫 (RRMM) の治療戦略	60	247
得平 道英	臨床的視点から理解するメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患	60	240
新田 英昭	MYC関連B細胞リンパ腫の病態と治療	60	221
薄井 紀子	リンパ性白血病 (急性・慢性)	53	218

診 療

1. 要望書の提出

- 1) リューコストラットCDx FLT3変異検査の回数制限の解除に関する要望書
- 2) 厚労省へ提出
 - ・急性骨髄性白血病に対するサンラビンの安定供給についての要望書
 - ・ボニコグ アルファの在宅医療における自己注射保険適応の要望書
(日本止血血栓学会との共同提案)
 - ・急性骨髄性白血病に対するベネトクラクスの早期承認について
 - ・minor BCR-ABL mRNA測定キットの体外診断用医薬品の保険適用に関する要望書
 - ・初発又は再発難治IDH1変異陽性AMLに対するivosidenib、初発又は再発難治IDH2変異陽性AMLに対するenasidenibの要望書
- 3) 審議のみ
 - ・多発性骨髄腫患者を対象とした「ダラツムマブ皮下注製剤」の早期承認の要望書
(日本骨髄腫学会と日本骨髄腫患者の会) 日本血液学会としては提出を見送る

2. 医薬品関連/その他の審議

- 1) 汎用され安定確保に特に配慮が必要な医薬品の選定 (厚労省からの依頼)
 - ・日本血液学会からは下記10品目を選定、提出
ボルテゾミブ、レナリドミド、ダラツムマブ、シタラビン、ダウノマイシン、
トレチノイン、イマチニブ、ヒドロキシカルバミド、エクリズマブ、エルトロンボパグ
 - ・厚労省より中間報告あり (医療用医薬品の安定確保策に関する関係者会議資料案)
- 2) 全身性アミロイドーシス診断基準改訂案
- 3) ダウノマイシン静注用20mgの用法・用量の一部変更について (Meiji Seikaファルマ)
- 4) オファツムマブの承認整理について (ノバルティスファーマの供給停止申請)

3. 診療/診療報酬関連

- 1) 内保連へ2020年度診療報酬改訂提案を提出
- 2) DPC検討WG委員会 (中医協 診療調査専門組織) の編成 《 班長 神田善伸 》
ーリツキシマブのDPC対応について追加審議/提案
- 3) 令和二年度定義テーブルにおいて定義する副傷病について
ー慢性白血病、骨髄増殖性疾患のCLLについて修正依頼
- 4) 血液領域でのニボルマブ系薬剤の取り扱いについての検討
- 5) 社会保険とAI診療について理解を深めるための緊急アンケートへの回答
- 6) 『標準的医療説明の手順書 (改訂版) 』各論の仮目次作成

4. 再発及び難治性急性骨髄性白血病に対するFLAG療法の使用実態調査 (FLAG実態調査)

- 1) 一次調査: 2019年11月 日本血液学会研修施設宛にアンケート配信
回答結果 実施あり 65件 実施なし 269件 その他 20件 未回答 162件
- 2) 二次調査: 2020年3月 実施ありと回答の施設へ症例登録 (web) 依頼
回答結果: 151件の症例登録
- 3) 担当医師により集計。「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」に報告準備

5. ガイドライン等査読

- 1) 特発性造血障害に関する調査研究班
 - ・特発性造血障害疾患 診療の参照ガイド
 - ・骨髄異形成症候群 診療の参照ガイド
 - ・再生不良性貧血 診療の参照ガイド 2019年改定案
 - ・自己免疫性溶血性貧血 診療の参照ガイド 2019年度改訂版
 - ・発作性夜間ヘモグロビン尿症診療の参照ガイド 2019年度改訂版

- ・輸血後鉄過剰症の診療参照ガイド 2019年度改定版
- ・赤芽球癆診療の参照ガイド 改訂第6版

2) 厚生労働省研究班キャスルマン病診療ガイドラインの査読

6. 供給停止予定品目（日本医師会・疑義解釈委員会）についての確認

- ・2018年9月 供給停止品目
 - IgDの検査試薬：IgD骨髄腫などの診断、治療に必須であり供給停止に反対する意見を提出
- ・2019年 医療機器・体外診断用医薬品 供給停止品目
- ・2020年 第1回 供給停止品目
- ・2020年 第2回 供給停止品目
 - F1+2については代替検査薬が存在しないが、SFやTATで代用可能と判断した。

造血器腫瘍ガイドライン

造血器腫瘍診療ガイドライン第2版改訂

造血器腫瘍診療ガイドライン 2018年版(第2版)の改訂を行った。今回の改訂は、新薬の登場によって治療アルゴリズムの改訂と臨床ルエーションの改訂を必要とする箇所が多かったため、2018年版補訂版として、2020年4月に冊子版の刊行も行った。同時にweb版の改訂を行い、2020年9月に公開を行った。最新版のCQ数は以下の通りとなった。

分野 疾患	CQ
I. 白血病	71
1. 急性骨髄性白血病	16
2. 急性前骨髄球性白血病	9
3. 急性リンパ芽球性白血病・リンパ芽球性リンパ腫	14
4. 慢性骨髄性白血病・骨髄増殖性腫瘍	12
5. 慢性リンパ性白血病・生リンパ急性リンパ腫	8
6. 骨髄異形成症候群	12
II. リンパ腫	71
1. 濾胞性リンパ腫	7
2. 辺縁帯リンパ腫	10
3. リンパ形質細胞性リンパ腫/フルデンシュトレームマクログロブ	3
4. マントル細胞リンパ腫	8
5. びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	11
6. パーキットリンパ腫	6
7. 末梢性T細胞リンパ腫	3
8. 成人T細胞白血病・リンパ腫	5
9. 節外性NK/T細胞リンパ腫, 鼻型	5
10. ホジキンリンパ腫	13
III. 骨髄腫	26
1. 多発性骨髄腫 (MM)	
【くすぶり型多発性骨髄腫】	2
【移植適応のある初発多発性骨髄腫 (症候性)】	7
【移植非適応の初発多発性骨髄腫 (症候性)】	2
【再発・難治性骨髄腫】	5
【骨髄腫の合併症と治療関連毒性に対する支持療法】	4
2. 多発性骨髄腫の類縁疾患	
【孤立性形質細胞腫】	1
【AL アミロイドーシス】	2
【POEMS 症候群】	3

重篤副作用ガイドライン

厚生労働省が医薬品の使用により発生する副作用疾患に着目した対策整備として、平成 17 年～平成 22 年の間に整備した「重篤副作用疾患別対応マニュアル」の血液領域の 9 項目の改訂と免疫チェックポイント阻害剤に関する事項の新規作成依頼があり委員会を設立。

- ・免疫チェックポイント阻害剤に関する事項と 4 項目について記載し提出。
- ・残り 5 項目については、担当者を決定し、改定作業を実施中。
- ・予定通り、今年度中に提出完了予定。

ゲノム医療

造血器腫瘍ゲノム検査ガイドラインの改訂

現在「造血器腫瘍ゲノム検査ガイドライン(2020 年版)」の策定中である。

本年 4 月に、遺伝子変異のみられる疾患と意義についてのデータベースを改訂し先行して JSH のホームページにて web 公開した。

さらに、保険診療の収載を見据えて具体的な活用方法に関する推奨度を作成している(本年度中改訂予定)。これは、主要な疾患および病期(初診時、再発時)ごとに、ゲノム検査の有用性を「診断」「治療」「予後」の観点からエビデンスとともに示し、検査の実施に対する総合的な推奨度を提示するものである。

研究助成

目的：血液学における基礎・臨床の研究（血液疾患患者の利益となる研究）を発展させることを目的として当学会が実施する研究支援事業。
ピアレビュー（血液学分野の複数の研究者による審査）により、血液学の発展に貢献する研究に対し助成を行う。

助成件数：約100件

助成金額：1 件当たり 20 万円～200 万円

対象：血液学の臨床的・基礎的研究を対象とします。なお、薬剤を用いた介入研究は、対象外とします。

応募資格：日本血液学会会員で、上記の研究が可能な施設に所属する医師及び研究者(研究グループを除く)各講座(又は診療科)単位で申請できるのは、1 課題とします。

申請期間：2020 年 7 月 1 日(水)～7 月 27 日(月)

審査期間：2020 年 8 月 3 日(月)～8 月 31 日(月)

採否決定：2020 年 9 月末

応募・採択状況

	2019 年	2020 年
申請数	155 件	191 件
基礎領域	47 件	61 件
臨床領域	108 件	130 件
採択数	117 件	143 件
基礎領域	32 件	42 件
臨床領域	85 件	101 件

協賛：アッヴィ合同会社 サノフィ株式会社 セルジーン株式会社 ノバルティスファーマ株式会社
ブリistol・マイヤーズ スクイブ株式会社 (アイウエオ順)

1. CML 研究

1) 新 TARGET

観察研究1「初発未治療の CML-CP 患者を対象とした観察研究」

観察研究2「2nd または 3rd line イマチニブ既治療 CML-CP 患者を対象とした観察研究」

観察研究1：付随研究の論文化

Ono T, et al. Prognostic effect of comorbidities in patients with chronic myeloid leukemia treated with a tyrosine kinase inhibitor. Cancer Science, accepted.

観察研究2：本体研究の論文化

Sakurai M, et al. Treatment outcomes of chronic-phase chronic myeloid leukemia with resistance and/or intolerance to a 1st-line tyrosine kinase inhibitor in Japan: the results of the New TARGET study 2nd-line. Int J Hematol 2020;111:812-25.

2) JSH-J-SKI 研究

CML TFR 研究実行委員会 委員長 高橋 直人 (秋田大学)

「慢性骨髄性白血病患者に対するチロシンキナーゼ阻害薬中止後の無治療寛解維持を検討する日本国内多施設共同観察研究」

- ・すでに TKI を中止したまたは中止予定である CML 患者の臨床情報を収集し、TKI 中止後の無治療寛解に関する長期予後を調べる観察研究。

目標症例数と研究期間

- a) 予定登録症例数：1200 例（新規 TKI 中止患者 600 例+過去の TKI 中止患者 600 例）
- b) 予定登録期間：倫理審査委員会承認日から 2024 年 3 月 31 日（5 年間）
- c) 研究期間：倫理審査委員会承認日から 2029 年 9 月 30 日（10 年間）

症例登録状況（2020 年 8 月 12 日時点）

登録症例数：229 例（25 施設から）

2. 多発性骨髄腫研究

MM 研究実行委員会 委員長 飯田真介 (名古屋市立大学)

1) 「日本における骨髄腫関連疾患の予後に関する大規模多施設前向き観察研究 (JSH-MM-15)」

目標症例数：1,100 例 2018.12.31 で症例登録を完了し、3 年間のフォロー中

- ・2016～2018 年登録患者の背景因子データを固定（1,891 例/1,951 例：97%：全身治療を要する MM 1,366 例）→ 第 82 回 JSH 総会において発表予定
- ・追跡終了は、2021 年 12 月 31 日→主要評価項目（3 年生存割合）の解析

2) 次期 JSH-MM-20 の進捗状況

登録予定数：形質細胞腫瘍患者 1,200 例（多発性骨髄腫：795 例）

登録開始予定：2021 年 1 月 登録終了後の追跡期間は 5 年間（計 8 年間）

主要評価項目：3 年 OS

付随研究：ヤンセンファーマ社と「MM における MRD モニタリングの有用性」を検討中：

血清を用いた MALDI-TOFMS/LC-MS を用いた MRD 解析を NGF と対比させて有用性を検討する。

進捗状況：2020 年 9 月に名古屋市立大学で IRB 審査、その後 JSH 倫理審査委員会にて審査予定

3. 骨髄増殖性腫瘍研究

MPN 研究実行委員会 委員長 竹中克斗

1) 「日本における骨髄増殖性腫瘍の予後に関する大規模多施設前向き観察研究」

目的：わが国で WHO 分類 2017 の診断基準に基づいて新たに MPN (PV、ET、prePMF、PMF) と診断された患者の生存率、イベント発生率、およびその発生に影響を及ぼすリスク因子、治療実態について調査をすること。

デザイン：多施設共同前向きコホート研究対象：

目標症例：1,500 例 (ET 900 例、PV 500 例、prePMF/PMF 100 例)

主要評価項目：全生存率

登録期間：5 年 (2016 年 4 月～2023 年 3 月) 観察期間：10 年

進捗状況（2020年8月14日時点）：

倫理委員会承認施設：59施設 登録症例数：479例

2) 「日本における真性多血症および本態性血小板血症患者の臨床像、生命予後およびイベントリスクに関する多施設後方視的研究」

目的：わが国における骨髄増殖性腫瘍のうち真性多血症、本態性血小板血症患者の臨床像、実臨床で治療実態を把握し、生存率、イベント発生率、およびその発症に影響を及ぼしたと考えられるリスク因子を調査すること。

デザイン：多施設共同後向き観察研究

対象：WHO分類2008もしくはWHO分類2017の診断基準をみたしたPVおよびET患者目標症例：PV 1,500例、ET 1,500例

主要評価項目：全生存率

研究期間：倫理委員会承認～2020年9月30日

進捗状況（2020年8月14日時点）：

倫理委員会承認施設：37施設 登録症例数：1356例

4. 血液疾患登録事業

日本血液学会血液疾患症例登録（JSH）、国立病院機構血液疾患登録（NHO）、日本小児血液・がん学会疾患登録（JSPHO）に登録された症例の統合集計

2019年1月1日～2019年12月31日に新たに診断され、2019年6月21日（JSH, NHO）、2019年6月20日（JSPHO）までに疾患登録報告されたものを対象

■2019年診断例 団体別施設登録数及び登録数

団体名	施設数 *			登録数
	合計	登録あり	登録なし	
日本血液学会（JSH）	559	410	149	43397
日本小児血液・がん学会（JSPHO）	243	135	108	1895
国立病院機構（NHO）	30	20	10	2741
合計	832	565	267	48033

*JSH、JSPHO および NHO の施設は重複を含む

人材育成事業

専門医認定制度

1) 専門医等取得状況 2020年8月25日現在

専門医	4,245名
指導医	2,213名
血液研修施設	437施設
血液専門研修認定施設	205施設
血液専門研修教育施設	79施設

2) 専門医認定試験

2020年度（第30回）血液専門医認定試験

日時 2020年6月28日（日）13:00～15:00

会場 東京国際フォーラム ホールB5（東京都）

→ 新型コロナウイルス感染・拡大防止の観点より開催を1年延期

- ・2021年5月～6月の間で、2020年・2021年の認定試験（京都での開催予定）
- ・2020年血液専門医受験資格を有された受験者は、2021年受験資格が認められる
- ・2021年血液専門医認定試験は、2020年受験者を含めた試験となる

3) 新専門医制度への対応

- ・「新血液専門医プログラム」の改訂
- ・指導医・研修施設認定基準の改訂
- ・血液研修実績登録システムの構築および公開（専攻医サイト・指導医サイト）
- ・2022年新制度移行に伴う経過措置の検討
 1. 2022年から2024年までの血液専門医認定試験は、旧制度と新制度を併用した受験要件とする。
 2. 医籍登録2016年以前(2016年は含まれない)専門医受験者は、旧制度の受験資格を認める。
 3. 新制度で研修を行う専攻医は、2022年までの間、旧制度による研修施設での研修を認める。
 4. 2016年医籍登録に限り、並行研修は、2019年4月からの研修を遡り認める。2017年医籍登録の連動研修は、2020年4月1日からの研修を認める。なお、研修開始は、指導医の承認により開始するものとする。
 5. 2021年において取得している血液専門医・指導医は、2022年4月1日より新制度による血液専門医・指導医を取得する。
 6. 旧制度における血液研修施設は、2022年3月31日をもって終了する。

教 育

1. 第13回「研修医（初期・後期）のための血液学セミナー」について

開催形態：日本血液学会の主催として実施

→ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より開催中止

*教育委員会並びに教育企画委員会の話合いで中止決定（2020年4月2日）

*新型コロナウイルス感染症拡大で研修医にとっても落ち着いてトレーニングが受けられる状況ではない

*感染者数が更に増加すれば、直接の感染患者診療ではなくとも、様々な臨床業務の一部を研修医が担当する可能性がある

*4月末からの申し込み開始時点で7月の事態を予想できない

*セミナーの趣旨よりWebでの開催は見送ることとなった

*次回（2021年7月）については、2020年末を一つの目処として開催を検討する（会場は、本年内は仮予約状態）

2. 第10回若手臨床血液学セミナーについて（日本血液学会「協力」）

ノバルティス、協和発酵キリン、二社主催にて実施

→ 新型コロナウイルス感染防止拡大の観点よりWebでの開催へ移行

日程を2→3日に増やして一日の講演時間を短縮する

日時：令和2年11月7日（土）、11月8日（日）、11月14日（土）

<企業のコンプライアンス上、ライブ配信が条件>

*Web開催になったため、参加者数の制限が緩和された

*これまでのプログラムとほぼ同様の内容（内科・小児プログラムあり）

*血球形態についての講義は症例提示を中心に実施

*形態の講義ではアンサープログラムも利用

3. 研修医/血液を初めて選択する医師の為のテキスト作成について

<教育委員会・教育企画委員会からの意見>

研修医に対して何らかのテキストは必要なので、現在は市販の「研修ノート（血液）」を配布している。

総論が付いており、見開きで1疾患を解説しているので使いやすいが、ポケット版ではない。

血栓止血学会では研修医用の薄いテキストと、Web上の用語集を作製

血液学についても基本用語を説明するような用語集はあっても良い。

ポケットサイズの血液疾患マニュアルがあり、それが広く使われている。

Handyなものとするのか、マニュアル的なものとするのか、疾患ベースにするのか、などについて決定してから作製する必要がある。

普及啓発事業
広 報

1) 日本血液学会ニュース（メール便）定期便および臨時便の発行

① 2020年度（令和元年9月～令和2年7月）の発行回数

定期便 11回

臨時便 21回：学術集会、JSH 国際シンポジウム、専門医試験受験情報、研修医のための血液学セミナー、若手臨床血液学セミナー、MPN/MM 観察研究、JSH-MPN-R18 研究：研究計画書（第 1.2 版）、血液疾患症例登録、日本学術振興会賞、育志賞の募集案内、海外派遣プログラム参加者募集、年会費クレジット決済開始のお知らせ、など

海外メール配信 10回：海外会員入会案内、学術集会、JSH 国際シンポジウム、新年の挨拶

② 上記①以外のニュース便を配信

- ・2019年9月：第7回定時社員総会のご案内（インターネットによる議決権行使）
- ・2020年4月：【OSCR データセンター】データセンター業務対応の変更について
- ・2020年6月：日本血液学会研究助成事業 実施のご案内
- ・2020年7月：理事選挙実施のご案内

③ 海外へのプロモーション

・EHA,ASH Congress にて取得した海外研究者／関係者の E メールアドレス宛に、JSH 国際シンポジウムおよび学術集会の諸案内を配信

□ 配信数：テキスト版・HTML 版を合わせ 7,144 件（2020年7月号での会員宛配信実数）。昨年9月配信数（6,940件）より 204件増加

2) 日本血液学会ホームページ

- ・年会費クレジット決済開始
- ・新専門医研修実績登録システムについて
- ・学術集会抄録集アーカイブ 第 81 回を追加
- ・「永寿総合病院における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の実態に関する緊急報告」を会員専用ページに掲載
- ・新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連情報
- ・第 82 回日本血液学会学術集会の Web 開催移行について
- ・血液専門医制度における 2022 年新制度移行に伴う経過措置について

賞 等

1) 日本血液学会賞：副賞 100 万円

小松 則夫（順天堂大学医学部内科学血液学講座・主任教授）
代表研究：骨髄増殖性腫瘍における分子病態の解明

2) 奨励賞（第 81 回日本血液学会学術集会発表）：副賞各 30 万円 ※所属は発表当時

越智 陽太郎（京都大学 腫瘍生物学）

Combined Stag2/Runx1 loss causes myelodysplastic syndrome through perturbed enhancer interactions

黒滝 大翼（横浜市立大学 免疫学）

3D chromatin structure dynamics during dendritic cell differentiation *in vivo*

佐々木 謙介（九州大学大学院 病態修復内科学）

A fast and accurate diagnostic method for Ph-like ALL using the nCounter system

仙波 雄一郎 (九州大学病態修復内科学)

Genome-wide CRISPR-Cas9 screen identifies novel therapeutic targets for TP53-mutated AML

竹田 淳恵 (京都大学 腫瘍生物学講座)

Novel molecular pathogenesis and therapeutic target in acute erythroid leukemia

長町 安希子 (広島大学 原医研 先端医学実験施設)

Regulation of receptor internalization by Samd9/Samd9L and their mutants

平林 茂樹 (理研 生命医科学研究センター)

Intratumoral heterogeneity of multiple myeloma revealed by single-cell RNAsequencing

藤本 亜弓 (島根大学 腫瘍・血液内科)

Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for patients with aggressive NK cell leukemia

前川 隆彰 (防衛医科大学校 血液内科)

SLAMF7^{high} CD16⁻ monocytes increase in myelofibrosis patients in correlation with *JAK2V617F* mutation

水牧 裕希 (金沢大学 血液内科)

A loss-of-function mutation in exon 1 of limited HLA class I alleles is common in aplastic anemia

3) 日本白血病研究基金助成 (学会推薦)

越智 陽太郎 (京都大学 腫瘍生物学)

4) 外郭団体各賞

・推薦: 藤原賞

・推薦募集: 慶應医学賞、日本学術振興会賞、持田記念学術賞、日本学術振興会育志賞、
太田原豊一賞、日本医師会医学賞、日本医師会医学研究奨励賞、SGH 特別賞、
文部科学大臣表彰

5) JSH Travel Award for 25th EHA Congress 選考

倫理

1. 学術集会演題登録時の、「倫理面への配慮に関する項目」に関して、変更を行った。
2. 本学会が研究主体となっている臨床研究において、IRB を通った施設数、倫理的問題や違反などに関し、倫理委員会に年1回報告書を提出いただくことを決定した。

COI

1. 規定、申告書の改訂および日血 HP 利益相反ページの更新
 - ・日本血液学会 講演会および機関誌における利益相反 (COI) の開示
 - ・Disclosure of Conflict of Interest (COI) in Conferences and/or Official Journals of the Japanese Society of Hematology (JSH)
 - ・COI Self-Report Form in Conferences [英語版]
 - ・HP の利益相反に関する文言
2. COI 自己申告の実施
 - ・『造血器腫瘍診療ガイドライン補訂版 (冊子版)』、『造血器腫瘍診療ゲノム検査ガイドライン 2020 年度版』における委員全員の利益相反開示
 - ・本学会主催の学術集会発表者 (共同演者を含む)
※本年より演題登録時に申告
 - ・本学会機関誌 (臨床血液、IJH) で発表を行う著者全員
 - ・本学会役員 (理事長、理事、監事)、学術集会会長・次期会長、・国際シンポジウム会長、次期国際シンポジウム会長、各種委員会のすべての委員長/副委員長、特定の委員会委員など)
3. 役員 COI 自己申告書について、COI 委員長による調査を実施